

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

新春ミニ展示「寅年展」を開催します ～トラにちなんだいろいろな生き物たち～

2022年（令和4年）は寅（とら）年。令和4年1月5日（水）～令和4年1月30日（日）の間、博物館本館出入口付近の展示コーナーにて、毎年恒例の新春ミニ展示「干支」展を開催します。「寅年」に関連して、「トラ」にまつわる様々な標本を展示します。トラの頭骨や、翅が虎模様のトラフアゲハ、トラの尾のような花穂をもつイブキトラノオ、殻が虎模様のトラマイマイ、トラの目のような模様の虎目石などの標本を展示予定です。

■開催概要

1. 名称：新春ミニ展示「寅年展」～トラにちなんだいろいろな生き物たち～
2. 会期：令和4年1月5日（水）～令和4年1月30日（日）
3. 開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）
4. 休館日：毎週月曜日、12月28日～1月4日、1月11日（ただし1月10日（月祝）は開館）
5. 場所：大阪市立自然史博物館 本館1階 出入口付近
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23
TEL:06-6697-6221（代表） FAX:06-6697-6225
大阪メトロ御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1,000m
ホームページ：<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
6. 観覧料：常設展入館料（大人300円、高大生200円）
※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者1名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。30人以上の団体割引あり。
※令和4年1月9日（日）・1月10日（月・祝）は「関西文化の日プラス」のため、常設展入館料は無料となります。

■広報用画像



<虎目石（タイガーズアイ）>

ケイ酸塩鉱物の仲間であるリーバック閃石の繊維状集合体に、二酸化ケイ素（SiO₂）がしみ込んで固結したものです。青灰色のものは鷹目石（ホークスアイ）、黄褐色のものは虎目石とそれぞれ呼ばれています。元々の繊維状集合体はアスベスト（石綿）の一種ですが、二酸化ケイ素によってしっかりと固結しているので、飛散する危険性はありません。内部の繊維状の構造が反射した光を集中させる「猫目（シャトヤンシー）効果」により、美しい光の帯が表面に見られます。



<トラフアゲハ>

アメリカに分布するアゲハチョウの仲間です。名前のように虎斑模様で、英名はTiger swallowtail butterflyといます。



<イブキトラノオ (タデ科) >

山地の草原に生える多年草。初夏から晩夏にかけて、トラの尾のように太く長い花序をつけます。滋賀県伊吹山に多く見られたことから「イブキ」の名前が付いています。



<トラ (頭骨) >

横に広がった頬骨と、尖った頭頂は、顎を閉じる筋肉が多いことを示しています。上下の臼歯が、外と内にもずれていて、ハサミのようです。噛まれると痛そうです。



<ウミトラノオ>

褐藻の仲間で、根から伸びる軸に小さい葉が密生し、虎の尻尾を思わせることからこの名があります。日本各地の岩礁潮間帯に群落を作り、長いものでは藻体が1メートルに及びます（写真は大阪府岬町豊国崎）。



<トラフケボリ>

タカラガイの仲間です。生きている時は外套膜（体を覆う膜）を伸ばして殻全体を包んでいますが、その外套膜が黄色地に褐色の縞模様をしていることからこの名があります（殻口の奥に見えるのは、おそらく乾燥した状態の外套膜）。この標本はトラフケボリを1971年に新種として記載した山本虎夫氏のコレクションに含まれているパラタイプです（当館所蔵）。

（パラタイプ：新種を記載する際に、その種の基準として指定する唯一の標本をホロタイプと言いますが、パラタイプはホロタイプに準じる標本として指定されるものです。）



<トラマイマイ>

関東地方に分布するミスジマイマイの亜種で、黄褐色～赤褐色の地に黄白色の美しい縞模様を持つカタツムリです（写真は静岡県産）。

■ 広報に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課 広報担当

TEL : 06-6697-6222 FAX : 06-6697-6225